

第148回 日商簿記検定試験 2級 工業簿記 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保证するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第4問 個別原価計算

1. 仕掛品勘定の作成

個別原価計算制度を採用している場合、製造原価は、原価計算表により集計される。本問においても、原価計算表を作成し、各製造指図書の前原価の流れを確認すればよい。

	# 180201	# 180202	# 180203
直接材料費	480,000 円	624,000 円	432,000 円
直接労務費	644,000 円	854,000 円	392,000 円
直接経費	—	186,000 円	—
製造間接費	138,000 円	183,000 円	84,000 円
合計	1,262,000 円	1,847,000 円	908,000 円
備考	完成	仕掛中	仕掛中

- a. 直接材料費：#180201 … 24,000 円/台 (予定消費単価) × 20 台 (製品#180201 消費量) = 480,000 円
 #180202 … 24,000 円/台 (予定消費単価) × 26 台 (製品#180202 消費量) = 624,000 円
 #180203 … 24,000 円/台 (予定消費単価) × 18 台 (製品#180203 消費量) = 432,000 円
- b. 直接労務費：#180201 … 1,400 円/時間 (予定平均賃率) × 460 時間 (製品#180201 直接作業時間) = 644,000 円
 #180202 … 1,400 円/時間 (予定平均賃率) × 610 時間 (製品#180202 直接作業時間) = 854,000 円
 #180203 … 1,400 円/時間 (予定平均賃率) × 280 時間 (製品#180203 直接作業時間) = 392,000 円
- c. 直接経費：製品#180201のみ、外注加工 (無償支給) を行っているため、当該外注加工賃 186,000 円を直接経費として計上する。
- d. 製造間接費予定配賦額：
 - ・ 予定配賦率：5,040,000 円 (年間製造間接費予算) ÷ 16,800 時間 (年間予定直接作業時間) = 300 円/時間
 - ・ 予定配賦額：#180201 … 300 円/時間 (予定配賦率) × 460 時間 (製品#180201 直接作業時間) = 138,000 円
 #180202 … 300 円/時間 (予定配賦率) × 610 時間 (製品#180202 直接作業時間) = 183,000 円
 #180203 … 300 円/時間 (予定配賦率) × 280 時間 (製品#180203 直接作業時間) = 84,000 円

上記より、仕掛品勘定を次のとおり作成する。

		仕掛品		
⇒材料勘定より	直接材料費	1,536,000	当月完成高	1,262,000 ⇒#180201の原価
⇒貸金勘定より	直接労務費	1,890,000	月末有高	2,755,000 ⇒#180202、
⇒経費(現金)勘定より	直接経費	186,000		#180203の原価
⇒製造間接費勘定より	製造間接費	405,000		
		4,017,000		4,017,000

(注) 直接経費は、本来「経費」勘定や「外注加工賃」の勘定から仕掛品勘定へ流れることが多いが、本問の場合には、当該勘定科目がないため、支払手段である「現金」勘定にて仕訳を行う。

2. 製造間接費配賦差異の計上

製造間接費勘定には、実際額が借方に集計され、予定配賦額が貸方に記入される。そのため、貸借差額により予定と実際の相違を示す原価差異が把握される。

製造間接費			
実際発生額	422,000	予定配賦額	405,000 ⇒ 仕掛品勘定へ
		原価差異	17,000
	422,000		422,000

本問の原価差異は、予定配賦額を実際発生額が上回って生じており、企業に不利な影響を及ぼしているため、不利差異と判断される。

この原価差異を原価差異勘定に転記すると次のようになり、原価差異の勘定の借方にあるため、不利差異＝借方差異ともよばれている。有利差異の場合は貸方に生ずるため、貸方差異ともよばれる。

原価差異	
製造間接費	17,000

第5問 組別総合原価計算

1. 加工費予定配賦率

$$\frac{81,900,000 \text{円 (加工費年間予算額)}}{18,000 \text{時間 (予定年間直接作業時間)}} = 4,550 \text{円/時間}$$

2. 各製品への加工費予定配賦額

A製品：4,550円/時間(予定配賦率) × 450時間(A製品直接作業時間) = 2,047,500円

B製品：4,550円/時間(予定配賦率) × 800時間(B製品直接作業時間) = 3,640,000円

3. A製品に関する製造原価の算定

仕掛品-原料費				仕掛品-加工費			
月初仕掛品	当月完成品			月初仕掛品	当月完成品		
187,000円	100kg	1,900kg	3,067,000円	63,500円	50kg	1,900kg	2,006,000円
	当月投入量	月末仕掛品			当月加工量	月末仕掛品	
3,200,000円	2,000kg	200kg	320,000円	2,047,500円	1,950kg	100kg	105,000円
<u>3,387,000円</u>			<u>3,387,000円</u>	<u>2,111,000円</u>			<u>2,111,000円</u>

- ◇ 原料費・月末仕掛品原価：3,200,000円(当月投入原価) ÷ 2,000kg(当月投入量) × 200kg(月末仕掛品数量) = 320,000円
完成品原価：3,387,000円(借方合計) - 320,000円(月末仕掛品原価) = 3,067,000円
- ◇ 加工費・月末仕掛品原価：2,047,500円(当月投入原価) ÷ 1,950kg(当月加工量) × 100kg(月末仕掛品数量) = 105,000円
完成品原価：2,111,000円(借方合計) - 105,000円(月末仕掛品原価) = 2,006,000円

4. B製品に関する製造原価の算定

正常仕損費の負担については、仕損の発生点が工程の途中であるから完成品と月末仕掛品の両者に正常仕損費を負担させる。

仕掛品-直接材料費				仕掛品-加工費			
月初仕掛品	当月完成品			月初仕掛品	当月完成品		
497,500円	300kg	2,750kg	5,642,500円	217,500円	150kg	2,750kg	3,597,500円
	当月投入量	2,150kg 208kg	⇒度外視		当月加工量	2,000kg 108kg	⇒度外視
6,195,000円	⇒ 2,950kg	月末仕掛品		3,640,000円	⇒ 2,800kg	月末仕掛品	
		500kg	1,050,000円			200kg	260,000円
<u>6,692,500円</u>			<u>6,692,500円</u>	<u>3,857,500円</u>			<u>3,857,500円</u>

- ◇ 原料費・月末仕掛品原価：6,195,000円(当月投入原価) ÷ 2,950kg(当月投入量) × 500kg(月末仕掛品数量) = 1,050,000円
完成品原価：6,692,500円(借方合計) - 1,050,000円(月末仕掛品原価) = 5,642,500円
- ◇ 加工費・月末仕掛品原価：3,640,000円(当月投入原価) ÷ 2,800kg(当月加工量) × 200kg(月末仕掛品数量) = 260,000円
完成品原価：3,857,500円(借方合計) - 260,000円(月末仕掛品原価) = 3,597,500円

5. B製品完成品単位原価

$$\frac{5,642,500 \text{円 (原料費)} + 3,597,500 \text{円 (加工費)}}{2,750 \text{kg (完成品数量)}} = 3,360 \text{円/kg}$$